

事業評価シート

事務事業名	確かな学力定着事業	担当課名	学務課
総合計画の 主要施策名	「確かな学力」を身に付けた子どもの育成	班 名	学務班
		事業コード	4221

事業の目的	「確かな学力」を育成し、個性と創造力豊かな児童生徒を育成する。			
事業の内容	基礎学力の定着度調査、学習を計画的に進めるための客観的資料となる検査、生活支援を要する子どもへの支援員配置、複式授業解消のための講師配置。			
事業の対象	町内小中学校児童生徒			
事業費	年度・区分	平成19年度決算	平成20年度決算	平成21年度予算
	金額	26,149 千円	28,468 千円	28,316 千円

事業の効果等	<p>20年度は全国学力・学習状況調査と秋田県学習状況調査の対象外となっている小学校1～3年生に学力検査を実施した。</p> <p>また、発達障害や語学力不足、複式授業の解消など教育上の特別な支援を要する児童生徒が在籍する町内の小中学校の要望に応じ、生活支援員及び臨時講師を配置し学校の円滑な運営を図った。</p> <p>生活支援員の配置……14人(小学校8人、中学校6人) 複式授業解消臨時講師配置……1人(小学校)</p>
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか。)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
内部評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
内部評価	B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている		
判定説明 及び考察	町民の学力向上への期待は非常に大きい。特別な支援、個別的な学習や学校生活の支援が必要な子どもが各学校に在籍しており、個に応じた指導を行うなど、今後も積極的に事業を展開していきたい。なお、複式授業解消は、学校再編によりH22年度には解消される。			
事業の 方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ継続する	

外部評価	B	評価委員意見	部局評価のとおり
------	----------	--------	----------